

安高啓明研究室×附属図書館連携企画VI

解説シート

# 日常を襲った衝撃

—江戸の災害と人々—

現在大規模災害が多発しているように、江戸時代の人々も飢饉や地震などに悩まされてきました。思いもしなかった災害に当時の人々はどう向き合ったのでしょうか。本展示では、安政の大地震や天保の大飢饉などの江戸時代の大規模災害の様子と、災害に直面した人々の対応を紹介していきます。



## ごあいさつ

前近代社会、治水や防災事業が不十分ななか、多くの天災に見舞われる。地震や台風、飢饉といった自然災害に対して現実的対応とともに、畏怖から呪術的に解決しようとする動きがあった。試行錯誤を重ねながらも、被害状況などをつぶさに記録し、後世に残すべき教訓として伝えていった者もいた。そこには、繰り返される天変地異への警鐘というべき人類の知恵が集約されている。

今回の展示では、江戸時代の災害として著名な安政地震と三大飢饉を取り上げる。安政地震は、1854（安政元）年に東海地方で発生したことをきっかけに、その翌年には、江戸で直下型地震が起こり、未曾有の被害を出した（安政江戸地震）。それ以降も列島各地で頻発した地震に多くの人々は不安な状況に陥った。

そして、享保17（1732）年の享保飢饉、天明3（1783）年から起こった天明飢饉、天保7（1836）年に起こった天保飢饉は、冷害や長雨、虫害等によって農産物に多大な被害を及ぼした（江戸三大飢饉）。米価高騰も相まって、多くの餓死者が出るなど、凄惨な状態が続いた。こうした過去の記録からは、逼迫した状況が伝わってくるとともに、乗り越えた先人たちの英知を知ることができる。

平成28（2016）年4月14日、同月16日に発生した熊本地震によって、いつ見舞われるかわからない災害に対峙していかなくてはならない気持ちを多くの人々がもつたろう。かつての災害の史実を認識しておくことは、防災意識を醸成するうえでも肝要であり、それを伝えることは歴史学の果たすべき役割である。一人でも多くの見学者にこうした教訓を提示できれば幸いである。

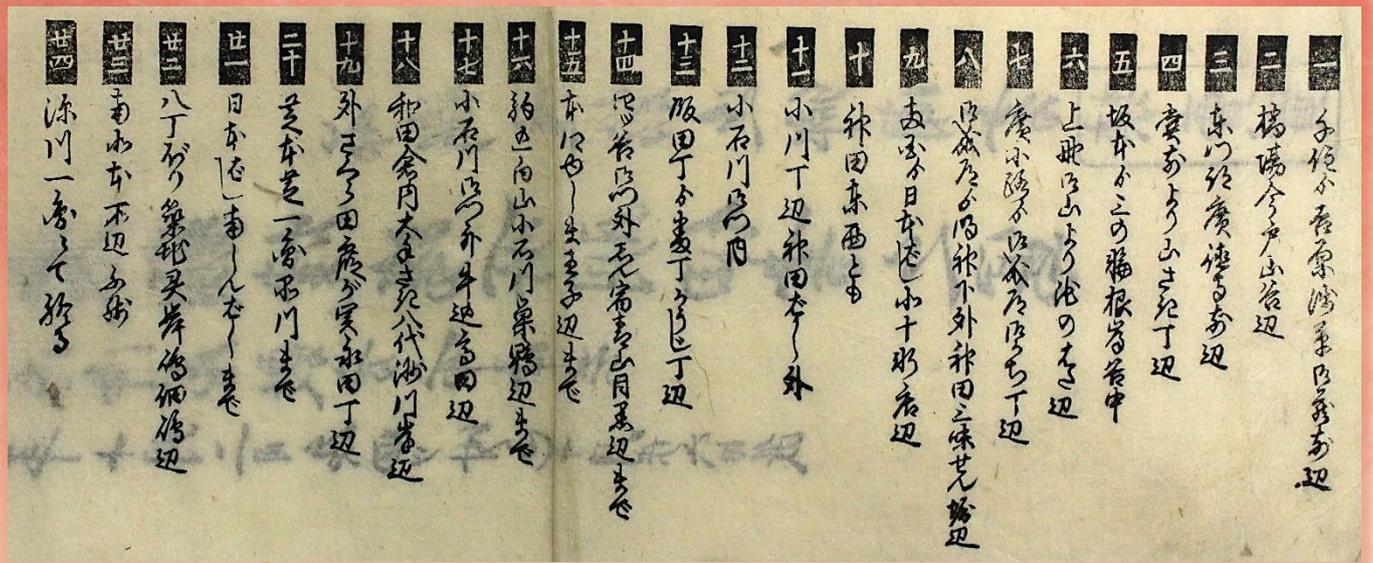
本企画展は、船の科学館・日本財団の海の学び調査・研究サポート「長崎・熊本両県における自然災害（地震・噴火・津波）に関する総合調査 一寛政4年「島原大變肥後迷惑」の文献・慰霊碑を中心に―」（研究代表：安高啓明）の助成をうけて実施することができた。日本史研究室に所属し、将来、学芸員への就業を希望する大学院生・学部生も、調査から展示に至るまで参加し、実践教育の機会として参加した。本事業にご協力いただいた関係各位に衷心よりお礼申し上げます。

平成30年11月16日

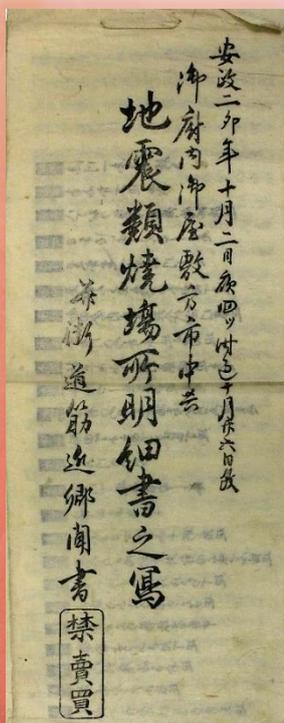
熊本大学大学院人文社会科学研究所  
准教授 安高啓明

# 『地震類焼場所明細書之写并御堂筋近郷聞書』

作成：不明 年代：江戸時代 所蔵：安高啓明研究室



- 一 千住方吉原浅草御蔵前辺
- 二 橋場今戸山谷辺
- 三 東門跡広徳寺辺前
- 四 堂前より山さき丁辺
- 五 坂本方三の輪根岸谷中
- 六 上野御山より池のはた辺
- 七 広小路方御成道御かち丁辺
- 八 御成道方明神下外神田三味せん堀辺
- 九 両国方日本ばし北十件店辺
- 十 神田東西とも
- 十一 小川丁辺神田ばし外
- 十二 小石川御門内
- 十三 飯田丁方番丁こうじ丁辺
- 十四 四ツ谷御門外しん宿青山目黒辺迄
- 十五 本郷内しま王子辺迄
- 十六 駒込之内小石川巢鴨辺まで
- 十七 小石川御門外牛込高田辺
- 十八 和田倉内大手さき八代浅川岸辺
- 十九 外さくら田霞が関永田丁辺
- 二十 芝本芝一圓品川まで
- 廿一 日本ばし南しんばしまで
- 廿二 八丁ぼり築地魚岸嶋佃嶋
- 廿三 南北本所所辺不残
- 廿四 深川一圓にて終る

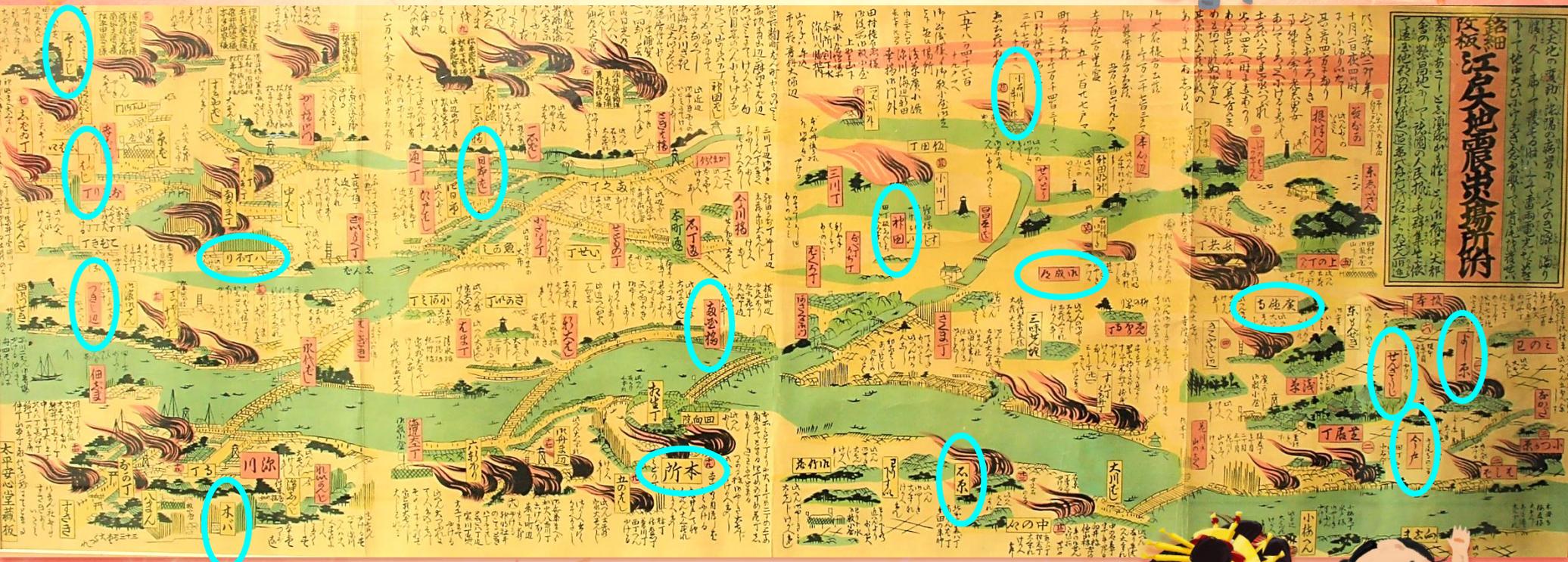


安政2(1855)年の地震によって起こった火災の記録です。千住から深川にわたる広範囲において火災が発生していたことがわかります。『江戸地震出火場所附』の絵の中で火煙が上がっているところと一致しています。それぞれの場所での火事の状況や寺院・家屋などの倒壊の様子といった被害状況が詳細に記されています。

# 『江戸大地震出火場所附』

注目!

作成：不明 年代：江戸時代末期～明治時代  
所蔵：安高啓明研究室



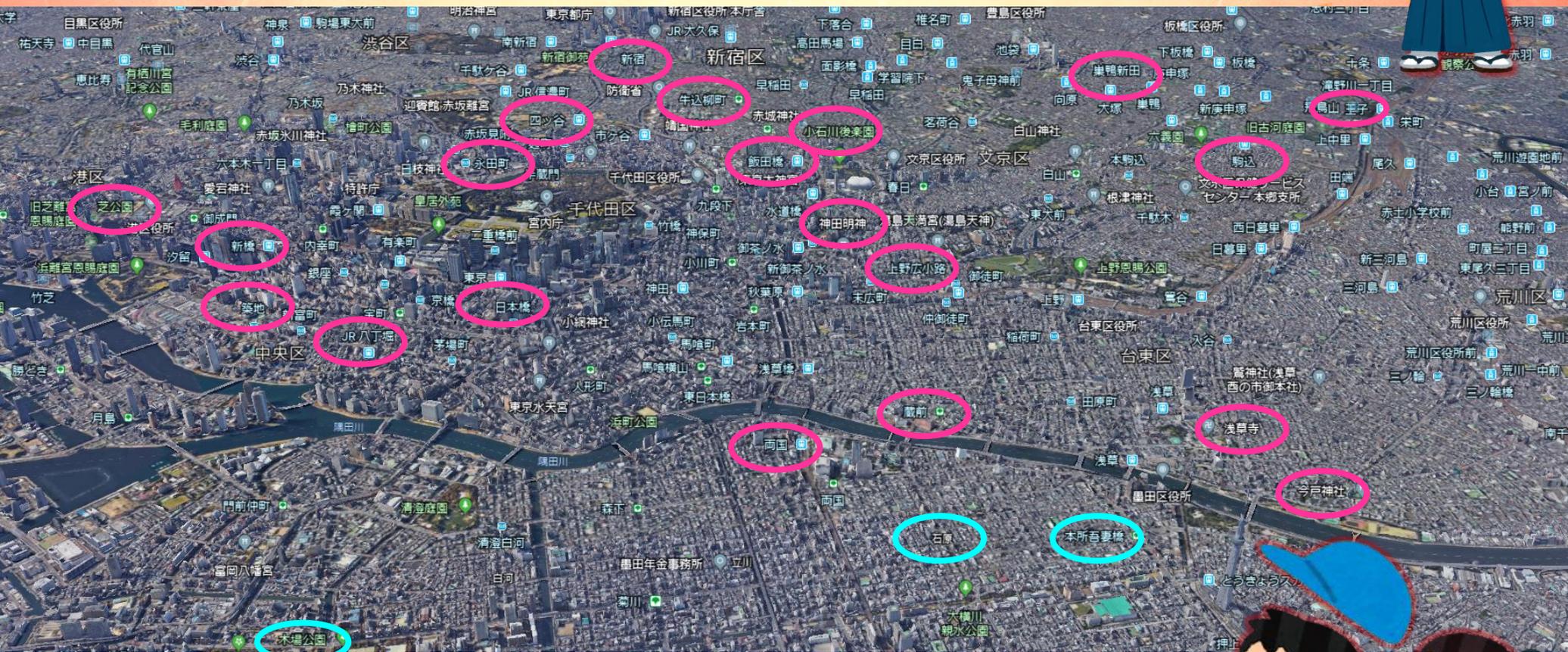
安政の大地震に伴う火災は、江戸の広範囲を襲いました。この絵図は、出火場所のみならず、焼失の程度や怪我人の多さを各地区ごとに詳しく記します。当時の江戸には、地方各地から多くの人々が働きに出てきていました。地元に残した親類縁者に、江戸の被災状況を知らせることを目的として、この絵図を作成したそうです。



# 《現在の航空写真》

浅草寺から芝公園までは約8 km。火災が広範囲に及んでいたことが分かります。

現在の地図と  
見比べてみよ！



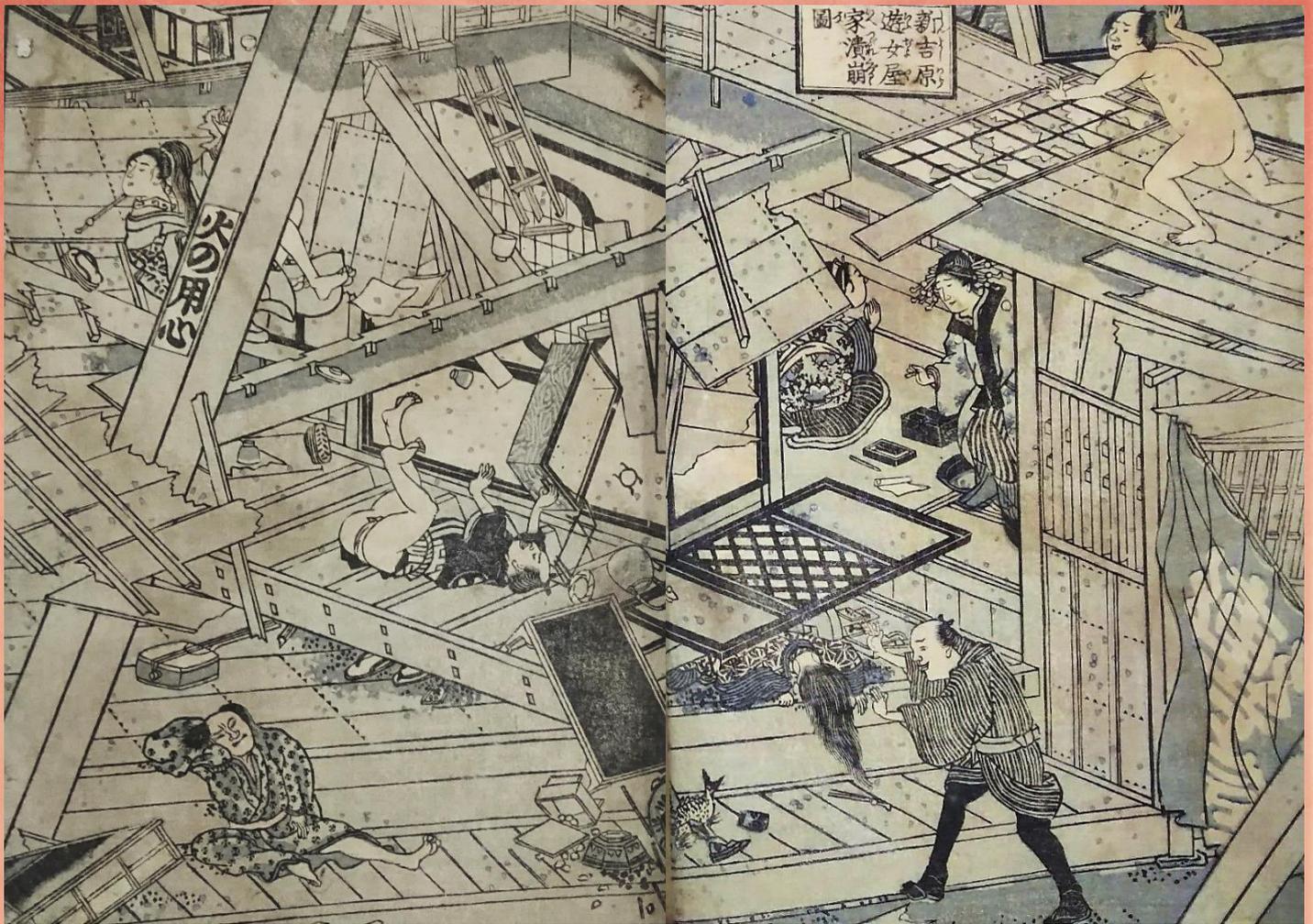
航空写真提供：Google Earth

- … 『地震類焼場所明細書之写』掲載地名
- … 『江戸大地震出火場所附』掲載地名

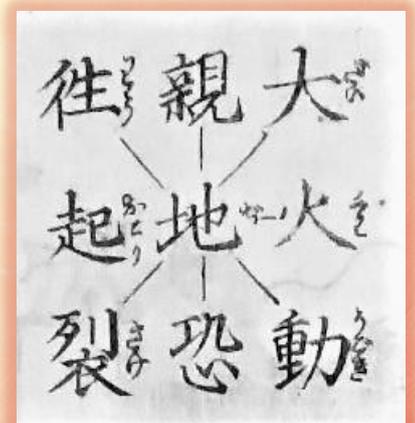


# 『安政見聞誌中巻』

作者：不明 年代：江戸時代 所蔵：安高啓明研究室



安政地震による人々や建物の被害状況、および発生直後の様子について、絵図や証言を基に記されています。江戸を襲った揺れは多くの家屋を潰し、そこから燃え広がった火によって、吉原の町は残ることなく焼失しました。たくさんの人々が集まる遊郭で生き延びたものはわずかに過ぎず、焼死者は「六百三十余人」に達したそうです。この絵図は、倒壊した建物の下敷きになった人々を描くことで、二次被害の恐ろしさを伝えています。



# 『凶荒図録』

編集・出版人：小田切春江 画図：木村金秋 年代：明治18年(1885)5月 所蔵：安高啓明研究室

享保・天明・天保の三大飢饉について、諸国における被害の逸話と飢饉への対策を紹介した書物です。ここでは、天保7年(1836)の大飢饉の経験者である古橋輝兎が周囲の人々を集め、自身の体験と飢饉対策の重要性を説く姿が取り上げられています。甚大な災害に瀕した後には、それらの記憶を後世に伝え防災を心がける努力がなされていました。



めいちゅうななねんはちがつ  
明治十七年八月

わがミカハのくにしたらこほり  
吾三河国設楽郡

いなはしむら ふるはしてゐるのり  
稲橋村の古橋輝兎と

ひとかね きようさい おそ こと  
いふ人豫て凶歳の怖るべき事を

しゆうじん かくそんらく  
衆人にしらしめんとて各村落の

のうミン あつ てんホしちねん きようさい  
農民を集め天保七年の凶歳に

あ らうじん そのとき  
遭ひたる老人をして其時の

ありさま した だんわ  
有様を親しく談話なさしめ

いちどうみなきやうがい きん おそ  
たるに一同皆驚駭し飢饉の怖る

ねん ひきおこ かね ぐんやくしよ  
べき念を引起し兼て郡役所より

いうどう ちよこく お  
誘導なりて貯穀いたし居れども

なおいつそうきようこう てあて おこた  
猶一層凶荒の手当を怠るべからざる

こと ざと ますくちらうみ  
事を悟り益注意するに

いた  
至れり



船の科学館平成 29 年度 PROGRAM 3 「海の学び調査・研究サポート」採択事業  
長崎・熊本両県における自然災害（地震・噴火・津波）に関する総合調査  
—寛政 4 年「島原大變肥後迷惑」の文献・慰霊碑を中心に—

研究代表：安高 啓明（熊本大学大学院准教授）  
作成：長屋 佳歩（熊本大学大学院）  
山下 葵（熊本大学）  
川端 駆（熊本大学）

海の学び  
ミュージアム  
サポート

Supported by  
日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION